

第1号様式

市民との意見交換会・報告書

開催地区： 謹教地区	開催日： 令和8年5月9日(土)	開催時間： 10:00 ~ 12:00
担当班： 第5班	出席議員： 吉田 恵三、桎屋 奈津子、奥脇 康夫、内海 基、小倉 孝太郎	
開催場所： 生涯学習総合センター(會津稽古堂) 3階研修室5・6		
参加人数： 男性7名、 女性4名、 合計11名 (他自治体等傍聴者1名)		
会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など		
1. 意見交換の総括		
(1) 議会報告、市政全般についての総括		
① 2月定例会議について		
議会運営及び広報・情報発信の在り方、若年層への周知・参加促進、商店街・農業など地域経済の振興、ごみ減量及び廃棄物処理、行政、人口減少とまちづくりの長期的視点等について意見が出された。		
② 市政全般(市のまちづくりに向けた課題)について		
市民生活に身近な課題から将来のまちづくりに関する内容まで、幅広い意見や提案が寄せられた。		
【その他の主な意見等】		
公共施設・観光環境の利便性向上、多文化共生・外国人住民への生活支援、防災・原子力災害への備え、ごみ減量及び廃棄物処理、行政、商店街・地域経済・買い物環境、人口減少とまちづくりの長期的視点等の意見が出された。		
(2) 地区別テーマについての総括		
① 地区別テーマ		
地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！		
② テーマ設定の理由、背景		
謹教地区では、地域づくり活動が一定程度行われている一方で、担い手の固定化や高齢化が課題となっている。特に、若者や女性の参加が限定的であり、活動が一部の人に依存している状況が見受けられるため、事前に各種団体と話し合いを行い、このテーマを設定した。		
③ 主な地域課題		
担い手の固定化や高齢化、若者や女性の参加が限定的であり、各種団体の活動状況が地域住民に知られていない。		
【その他の主な意見等】		
市民活動を行っている3団体の代表者が参加し、各団体の紹介や活動内容の報告が行われた。また、地域活動を更に活性化していくための課題や今後の取組の方向性について、意見交換が行われた。		

会津若松市議会議員 様

令和8年5月19日

会津若松市議会市民との意見交換会実施要領第2項第11号の規定により提出します。

予算決算委員会委員長 小倉 孝太郎

意見交換会第5班 代表者 吉田 恵三

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
定例会議の報告については、パソコンやプロジェクターを使用し、スライドを活用することで、より視覚的に分かりやすい説明になるのではないかな。	ご意見を広報広聴委員会に報告する。	●	②		意見交換会
議会モニターは、とても良い取組だと思う。紙面による周知だけでなく、動画を活用し、議会の取組や議会モニターの活動内容を分かりやすく伝えながら募集を行ってはどうか。	ご意見を広報広聴委員会に報告する。	●	②		議会運営
議会モニターの募集について、学生や学校への声かけは行っているのか。若い世代も意外と地域や議会のことに関心を持っていると感じており、これからは若い人たちの関心を育てていくことが大切だと思う。選挙権の有無に関わらず、子どもの頃から地域や議会に興味を持てるように学校などへも積極的に声かけを行ってはどうか。	市内の各高校には、生徒2名の推薦をお願いしている。会津大学は、学校の掲示板にチラシを掲示してもらっている。	●	①		議会運営
議会だよりについて、市民からどのような質問や意見が寄せられているのか。それに対して議会としてどのように回答や対応を行っているのか聞きたい。	後日回答する。	●	③	後日調査し、事後報告する。(事後処理報告書P18)	議会広報
一般質問を傍聴した際に、資料では市に対して強く求めるような表現になっている一方で、実際の質疑では柔らかい表現でやり取りされており、その差に疑問を感じた。一般質問の資料に記載されている「○○を示せ」といった表現について、これは決まった書き方なのか、また実際の議員の話し方との違いに違和感を感じた。一般質問における質問事項の書き方について、一定のルールや慣例があるのか聞きたい。	後日回答する。	●	③	後日調査し、事後報告する。(事後処理報告書P18)	議員活動

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
商店街の取組の現状について聞きたい。	産業経済委員会・予算決算委員会第3分科会では、市内に複数ある商店街の活性化をテーマとして設定し、調査・研究を行っている。 先進地視察や調査研究を行いながら、政策提言も行っている。商店街においては、にぎわいの創出が不可欠であり、議会においても提言を行ってきており、令和7年8月には、神明通り商店街の旧商業施設跡地に「まちなか案内所」が開設され、にぎわいの創出と交流が期待される。	○	①		中心市街地
会津の農産物の海外への販路拡大に向けた取組について聞きたい。	会津の農産物の中で、現在会津みしらず柿においては、会津坂下町、会津美里町、JA会津よつばと連携、協力の下、タイ等への輸出に取り組んでおり、令和7年度から新たに台湾に向け輸出している。今後も販路開拓、拡大を推進する。	○	①		農業

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
家庭ごみ処理用の袋の値段が高い。安くなる可能性はあるのか聞きたい。	家庭用有料ごみ袋の単価については、1リットルあたり2円であり、全国的に見ても高い設定となっている。ごみ処理の有料化導入時には、議会内でも「金額が高いのではないか」「ごみ処理は無料で行うべきではないか」など、さまざまな意見が出された。一方で、市としては単に収入を目的としたものではなく、ごみ減量に向けた市民意識の変化を促すことを重視しており、複数の料金パターンを分析した結果、単価を高く設定した方が減量効果が高いという検証結果があること、ごみ処理については「出した量に応じた負担」という考え方があり、会津若松市や福島県全体として、ごみ排出量の多さが課題となっていること、新しい焼却施設の稼働に伴い、ごみ減量が重要な課題となっていることから、現在の料金設定となった。現時点では、一定条件を満たした場合に料金を引き下げるといった具体的な方針は示されていない。ただし、紙おむつは指定袋不要、地域ボランティア活動で使用するごみ袋の配布や、町内会へのごみ袋の配布、交付金支給など、さまざまな対応も行っている。ごみの減量化が大きく進み、「現在の料金設定が適切なのか」という議論が必要となった場合には、将来的な検討課題の一つになる可能性はある。 今回寄せられた意見については、予算決算委員会第2分科会において受け止める。	○	①		環境

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
ごみ減量について、市から「減量を進める」という方針は示されているものの、具体的にどのような方法や方向性で減量を進めていくのか、市民への説明が十分に浸透していないのではないかな。	ごみの減量を進める背景としては、市のごみ排出量が全国的に見ても多い状況にあること、また、新しいごみ焼却施設において焼却炉が3炉から2炉へ変更されたことで、受入可能なごみの量が減少したことが大きな要因である。そのため、市では令和6年5月20日に「ごみ緊急事態宣言」を発出し、ごみ減量の目標達成を呼びかけてきた。当時は、一定の減量目標を達成できればごみ処理の有料化には移行しないという説明もされていたものの、令和6年9月から11月までの排出量が目標に届かなかったため、有料化へ進む判断となった。	○	①		環境
ごみ袋の価格が高いこともあり、市民の中には負担に感じている方もいるのではないかな。そのため、単に「減量してください」と呼びかけるだけではなく、具体的な減量方法や目的、なぜ必要なのかという背景を、より丁寧に市民へ伝えていく必要があるのではないかな。	ごみ袋の価格については、市民から「高い」という声が多く寄せられている。また、「なぜ有料化になったのか分からない」「いつの間に決まったのか知らなかった」という意見も依然として多くある。そのため、市としてはタウンミーティングや市政だより、LINE、SNSなどを通じて周知を行ってきたものの、10万人を超える市民全体へ十分に浸透したとは言い切れない状況であり、より丁寧な説明や周知が必要である。	○	①		環境
さらに、市議会議員は市民の代表であることから、こうした内容を市民へ分かりやすく伝え、理解を広げていく役割も重要ではないかな。	市議会議員の役割については、市民の意見を市へ伝えることに加え、ごみ処理の有料化の背景や目的を市民へ分かりやすく伝えていくことも重要であると考え。実際に、各地区での意見交換会などでも、「料金が高い」「袋が切れやすい」など、さまざまな声が寄せられている。議会としても、こうした市民の意見を受け止め市に伝える。	○	①		環境

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
その上で、現在どのような方向性で取組が進められているのか、改めて考え方を聞きたい。	現在の制度を実施しながら、その効果や課題を継続的に検証していく。また、生活保護世帯や非課税世帯には指定ごみ袋引換券の配布など一定の配慮も行っており、今後もどのような支援や周知が必要か検討していく。制度開始後もさまざまな課題が出てくると考えられるため、その都度、市民の意見を踏まえながら、改善できる部分については見直しを求めている。	○	①		環境
ごみ問題と焼却施設の整備について、焼却炉の更新計画は以前から進められていたものであり、炉の規模縮小についても当初から想定されていたのではないかと。もし人口減少対策をより重点的に取り組んでいけば、「焼却炉を小規模化する」という発想には至らなかったのではないかと。	新しい焼却施設については、会津若松市単独ではなく、会津坂下町、磐梯町、猪苗代町などを含む10市町村で運営され利用する広域施設であることから、市議会とは別の広域議会において整備計画が進められてきた。また、「焼却炉を小さくした」というよりは、従来3炉だったものを2炉体制へ見直したものであり、その背景には、少子高齢化や人口減少の進行に伴い、今後ごみ量が減少していくとの見通しがあった。さらに、施設整備後の維持費や償還負担を将来世代へ過度に残さないためにも、広域議会で議論を重ねた結果、2炉体制に決定したと聞いている。一方で、人口減少対策などについて、十分とは言えない部分もあったのではないかと。意見については、真摯に受け止めた。	○	①		環境

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
会津若松市では以前から少子高齢化や人口減少が課題となっていたことから、本来であれば人口増加や定住促進、高齢化対策などを含めた長期的な視点でまちづくりを進めていく必要があったのではないかと考える。今後の行政運営においては、単に目の前のごみ減量だけではなく、人口動態や将来のまちづくりも含めた長期的視点が重要ではないかと考える。	少子高齢化や人口減少への対応については、まだまだ取り組むべき課題が多くあると認識している。そのため、ごみ問題だけではなく、人口減少対策や将来のまちづくりも含めた長期的な視点を持ちながら、今後も議論を深めていく必要がある。また、議会としては決定権限を持つ立場ではないものの、市民の意見を市へ伝え、市の考えを聞きながら議論していく役割があることから、今回の意見についても受け止め、今後の議論につなげていきたい。	○	①		環境
人口減少が進んでいるにもかかわらず、ごみの量がなかなか減っていない点について、「人口が減れば、ごみも自然に減るはずではないか」という素朴な疑問を感じている。ごみ問題については、行政だけに原因があるのではなく、市民側にも改善すべき行動や意識があるのではないかと考える。また、「原因があるから結果がある」という視点から、ごみが減らない背景について、市民と行政の双方が考えていく必要があるのではないかと考える。ごみ問題については、一方的に行政を責めるのではなく、市民も含めて課題を共有しながら考えていくことが重要ではないかと考える。	人口が減少しているにもかかわらず、ごみが減らない理由については、市としても専門家に分析を依頼しているものの、現時点では明確な原因は特定できていない。そのため、最終的には一人一人の意識改革や行動変容が重要になってくるのではないかと考える。また、「観光客が増えていることが原因ではないか」という意見もあるものの、観光客によるごみは事業系ごみに分類されるため、家庭系ごみの増加とは別に考えている。市としては、分別の徹底や、生ごみの乾燥、キエーロの活用など、各家庭で少しずつごみ減量に取り組んでほしいと考えており、「一人一人がリンゴ1個分を減らしてほしい」という呼びかけも行っている。さらに、ごみ処理の有料化が始まった4月以降、ごみステーションの状況を見ると、ごみが減っていることを実感している市民も多いのではないかと話があった。有料化による影響なのも含め、今後もしっかり状況を確認・検証していきたい。	○	①		環境
文化センターのインターネットWi-Fi環境整備は、どのように進める予定なのか聞きたい。 Wi-Fi環境が整っていないため不便を感じる。	後日回答する。	○	③	後日調査し、事後報告する。 (事後処理報告書P19)	文化センター

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
鶴ヶ城のライトアップは、とても良い取組である。その一方で、鑑賞する来場者の利便性向上のため、ライトアップの終了時間に合わせて、鶴ヶ城の公衆トイレも利用できるようにしてほしい。	後日回答する。	○	③	後日調査し、事後報告する。(事後処理報告書P19)	観光
神明通りのまちなか案内所のトイレについて、靴を脱がずに利用できるよう、土足のまま入れる方式にしてほしい。	後日回答する。	○	③	後日調査し、事後報告する。(事後処理報告書P20)	中心市街地
ベトナム出身の方が居住するアパートから、ごみの不適正排出があった。市へ外国人向けのごみ出しルールの周知について確認したところ、ホームページ上のQRコードから外国語表示をしているページの閲覧が可能との説明があった。確認したところ、対応言語が英語のみであり、十分ではないと感じた。外国人住民が市と手続を行う機会などに合わせ、それぞれの母国語による説明や、パンフレット配布などを市で行ってほしい。今回は英語をベトナム語へ翻訳した説明書を作成して本人へ渡し、不適正排出の内容を説明したところ、その後は改善された。	外国人住民へのごみ排出ルールの周知について、現在、市の案内では英語版への案内はあるものの、その他の言語への対応が十分ではない。以前から、外国人住民が住むアパートなどで、「曜日が守られていない」「分別方法が分からず、まとめて出されてしまう」といった相談や意見が地域から寄せられている。現在、国際交流協会では、ベトナム語、中国語、英語などによるごみ排出ルールの案内資料を用意している。一方で、市民からは「本来は市として対応すべきではないか」という意見も出ており、議会としても、その必要性について市へ伝えてきた。特に、市ではベトナム、タイ、フィリピンなどの外国人住民が多いことから、英語だけではなく、多言語による案内や周知を進める必要がある。翻訳アプリなども活用されている一方で、それだけでは十分ではない面もあるため、引き続き市へ対応を求めていきたい。現在は国際交流協会(市民協働プラザ内)で多言語の案内資料を受け取ることができる。またホームページでも閲覧できるため必要に応じて活用してほしい。	○	①		環境

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
外国人住民へのごみ出しルールの周知については、市の手続の際など、必ず接触する機会があるはずなので、そのタイミングを活用して丁寧に説明してほしい。勤務先や、入居時の不動産会社、アパートの管理会社に対しても、日本のルールや地域のごみ出し方法について周知・協力を促してほしい。町内会のルールや地域での生活マナーについては、本人任せにするだけでなく、企業や管理会社とも連携しながら対応していくことが必要ではないかとの考える。	ご意見として伺う。	○	②		環境
柏崎刈羽原子力発電所は、小規模なトラブルや事故が繰り返し発生しており、万が一大きな事故が起きた場合、偏西風の影響により放射性物質が会津地方へ到達する可能性があるのではないか。市からは、会津若松市は避難者の受入地域として位置付けられており、市民が域外へ避難することを前提とした計画にはなっていないこと、また、福島県や新潟県の広域的な防災計画との整合性を図りながら対応を進めているとの説明があった。県全体の方針だけではなく、「会津地域としてどう考えるのか」という視点を持ち、地域防災計画の中で独自に検討していく必要があるのではないのか。こうした内容に関するパブリックコメント制度自体が市民にあまり知られておらず、意見提出者も少なかったことから、このような課題を共有し、市議会議員にも広く認識してほしい。	地域防災計画について、今回の改定は、近年全国各地で発生している地震や豪雨災害、温暖化による影響などを踏まえ、それらを市や福島県に置き換えた際に、どのような対応が必要かという観点から進められている。また、地域防災計画については、国の「防災基本計画」、福島県の「地域防災計画」と整合性を図りながら、市の計画を策定しているため、市独自の視点や対応が十分に盛り込まれていない部分もある。その上で、今回意見のあった、原子力災害や会津地域独自の視点についても、重要な観点の一つとして市へ伝えていきたい。今後、市独自の防災の考え方や対応についても、議論・検討していく必要があると考える。今回の意見については受け止め、今後に生かしていきたい。	○	①		防災・安全

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
家庭用の有料ゴミ袋について、1枚ずつ切り離して使用しなければならない仕様は、高齢者にとって不便であり、改善を検討してほしい。	ゴミ袋について、ロール式になっているため、「1枚ずつ切り離す際に破れてしまう」といった意見が多く寄せられている。袋を結ぶ部分が弱く、使用時に破れやすいといった課題も指摘されている。ロールから切り離す際に、必要以上に裂けてしまうケースがあり、利用づらいとの声も多い。これらの点については、環境共生課でも課題として認識しており、今後改善していく必要があるとの考えが示された。議会としても、市に対して改善を求めながら、しっかり後押ししていきたい。	○	①		環境
神明通りに食料品店がなく、日常の買い物に困っている。高齢化が進む中、車を前提として郊外へ買い物に行くのではなく、歩いて買い物ができる環境を地域の中に整えていくことが重要ではないか。市長との対話の場でもこの件を伝えており、市としても調査等を行っているとの説明を受けた。小規模スーパーが、神明通り周辺には適しているのではないか。クラウドファンディングの活用や、市民主体によるスーパー、公営スーパーの可能性はどうか。常設店舗が難しい場合は、移動販売車による定期販売など、買い物支援の仕組みを検討できないか。神明通りは中心市街地でありながら人通りが少なく、買物環境がまちなかのにぎわいにも影響しているのではないかと意見がある。	神明通り周辺の買物環境について、現在、まちなか案内所周辺ではイベント時にキッチンカーの出店などが行われている。その上で、今後は移動販売車の導入についても検討してほしいとの考えが示された。これは議会としての正式な提案ではなく、個人的な意見として事業の中で考えてほしいと伝えている。また、神明通り周辺には、いわゆる「買物難民」となっている方も多くいるとの認識が示され、以前はイオンにも店舗出店をお願いしていたものの、様々な事情により難しかった。コープ本町店の閉店に関連し、コープ側では、登録者を対象に送迎するサービスを検討している。単に移動販売車を走らせるだけでなく、実店舗まで利用者を送迎するような支援サービスも今後重要になっていくのではないかと。今後、こうした取組が神明通り周辺にも広がり、地域の買物支援につながっていくことを期待したい。	○	①		中心市街地

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
区画整理や道路整備について、旧市街地では道路が狭く、行き止まりも多いため、「通れそうで通れない場所が多い」と感じている。普段徒歩で移動しており、住宅の塀やフェンスによって通り抜けができない場所が多く、防災面・安全面でも課題であると感じている。特に、救急車や消防車が入れない地域もあることから、「安全・安心なまちづくり」という観点でも不安を感じている。区画整理については、道路整備のために土地を提供することへの抵抗感もあると思うが、将来を考えると、道路整備が進まないことで地域全体が取り残され、若い世代が住まなくなるのではと懸念している。道路整備が進んだ都市と比較し、市は昔ながらの道路構造が残っている。交通利便性が高い地域には若い世代や移住者が集まる傾向があることから、まちづくりにおいて交通や道路環境は重要な要素ではないかと考える。道路幅はどこで確認できるのか、また、区画整理に関する相談はどこにすればよいのかを聞きたい。	各地域で異なる開発業者が整備を行ってきた結果、道路形状や通行環境に統一性がなく、ちぐはぐなまちづくりになっている部分があるのではないかと。そのため、開発許可に関する内容については都市計画課が所管となり、道路の拡幅や整備に関する内容については道路課が担当になる。今回の意見については、「都市計画課が開発許可を出す際に、地域全体としての一体性が十分考慮されていないのではないか」という問題提起として受け止める。同様の意見は他地区からも寄せられているため、今後も建設委員会の中で確認・検討していきたい。	○	①		道路

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
ごみ減量の考え方について、「3R」の取組が重要である。市でも基本的な考え方として「リデュース(減らす)」「リユース(繰り返し使う)」「リサイクル(再資源化する)」を推進している。近年は「4R」として、不要なものや過剰包装を断る「リフューズ」。また「5R」として、壊れたものを修理して使う「リペア」といった考え方も広がっている。ごみを減らすためには、そもそも不要な物を買わない、必要かどうかを考えて購入することが大切ではないか。古布や古着などについても、近年はリサイクルの仕組みが広がってきている。こうした取組を更に進めながら、ごみ減量につなげていく必要があると考える。	ご意見として受け止める。そうした視点が重要であると考える。	○	②		環境

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
	今回の謹教地区市民との意見交換会においては、「地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう」というテーマを設定した。いくつかの団体にも出席いただいているので、団体の紹介を受けながら、地域住民や市民による地域づくりに必要なことなどを一緒に考えていきたい。				
NPO法人はるなか理事長の川延氏から団体の紹介。「はるなか」という名称は、江戸時代の会津藩家老・田中玄宰(はるなか)に由来しており、当時、殖産興業や教育制度の整備など、会津藩の発展に大きく貢献した人物の志を現代につなげたいという思いから活動している。小田山の里山保全活動や、会津の伝統産業である漆文化を守る活動や自然環境や地域づくりに関する活動も行っている。令和7年度から県のサポート事業を活用し、詩人の和合亮一氏と連携した「おとなの遠足」というイベントも実施している。小田山、青木山、大窪山などを歩きながら、会津の地域資源を見学し、会津の歴史や文化を学ぶ取組を行っている。会津の漆をテーマに、実際に漆の木を見学し、漆液の採取や精製過程を学ぶ体験型イベントも予定している。県立博物館とも連携し、子どもたちを対象とした地域体験活動にも取り組んでおり、NPO会員と一緒にシイタケの栽培体験を行うなど、地域の人々と子どもたちをつなぐ活動も進めている。地域のさまざまな人たちと連携しながら、「一緒にできることを一緒にやっていきたい」という思いで活動している。	(情報提供)	○	②		まちづくり

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
活動を進める中で、市の取組と方向性が近づく時もあれば、距離を感じる時もある。その中で、市の農林関係部署と話をする機会があり、漆の植樹事業については、必ずしも円滑に進んでいない現状もあるとのこと。NPO法人はるなかでも漆の植樹活動を行っていることから、「一緒に相談しながら進めていきましょう」という話になった。本日のように、実際に会って話をするこで、相互理解や連携につながる大切な機会になる。	漆に関する取組は、会津の特産品である漆器の原材料となるウルシ液供給のため、ウルシ樹の新植、育成及び掻き取りを行っており、市農政部農林課が所管している。一箕町金堀地区ではウルシ液の掻き取り、大戸町南原地区において、ウルシ苗木の新植も進めている。漆に関する事業は、取組自体が市民に十分に伝わっておらず、内容も分かりづらい面もある。事業内容や取組状況について、より積極的な情報発信を行うとともに、関心を持つ市民や団体などと連携し、一緒に取り組む可能性について検討していくべきと考える。	○	①		まちづくり
不登校の子どもたちとの関わりや地域活動を進める中で、市と同じ方向を目指していると感じる場面がある一方、実際にどの担当部署へ相談すればよいのかが分かりづらく、連携につながりにくいと感じる。	ご意見として伺う。	○	②		まちづくり
子育てや子どもの育成については、県立病院跡地や県立博物館の活用など、様々な分野で同じ課題意識を持って取組が進められているものの、各活動や情報が十分に共有されていないように思う。そのため、市民活動団体や行政の取組状況を共有し、「一緒にやりましょう」と連携できるような仕組みがあると、より効果的に協力体制が生まれ、地域活動も広がっていくのではないかと思う。	情報が共有される仕組みづくりが重要である。ご意見として伺う。	○	②		まちづくり

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
NPO法人はるなかへ「小田山がきれいに整備されていたため、管理をしているのか教えてほしい。また、青木山も管理をしているのか教えてほしい。」との参加者からの質問があり、「小田山については、全部ではないが、下草狩り、木の伐採、道の整備などを行っている。また、青木山の管理については、NPO法人はるなかでは行っておらず、地区の方が管理していると思う。」との回答があった。	(情報提供)	○	②		まちづくり
教育委員会における社会科教育や地域の歴史教育の重要性について、小さい頃から「会津盆地がどのように成り立ってきたのか」など、地域の歴史や成り立ちを学ぶことが、郷土愛の醸成につながると思う。また、地場産業への理解や関心を深める意味でも、地域の歴史や文化に関する教育に、より力を入れてほしい。そのため、教育委員会には、知識だけでなく、地域への愛着や感性を育むような教育にも取り組んでほしい。	市内の小学6年生を対象に、会津の歴史や文化を学ぶ「まなべこツアー」が実施されている。まなべこ院内御廟で学習を行い、地域の歴史について理解を深めている。子どもの頃から郷土愛を育むことが大切であり、将来、市外へ出たとしても「会津は良かった」「会津に戻りたい」と思ってもらうことが、人口減少対策にもつながるとの認識が教育委員会にもある。郷土の歴史や文化を学ぶ教育については、今後も継続して充実させてほしいと教育委員会へ伝えている。	○	①		学校教育

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
情報提供として、みずほ銀行と東京藝術大学が連携して進めている「芸大みずほプロジェクト」について紹介があった。芸術・アート of 技術と地域や企業活動を組み合わせ、新たな活路や価値を生み出していこうとする取組である。会津支店でも数年前からプロジェクトが進められている。令和8年度については、市の文化事業とも連携しながら事業を展開していければという話も出ている。この取組は会津だけでなく、香川県高松市では香川大学と東京藝術大学、みずほ銀行が連携したプロジェクトへと広がりつつあり、今後は都内や島根県などでも展開したいという声が出ている。会津若松市では、地元企業と東京藝術大学が連携しながら活動している点が特徴的であり、1年目・2年目は試行的な取組として静かに進めてきたが、今後は徐々に市民にも認知される活動へ成長していく可能性がある。こうした取組を市とも情報共有しながら進めることで、子どもたちへの還元や郷土愛の醸成にもつながる可能性があるため、ぜひ協力してほしい。	ご意見として伺う。 市が取り組んでいる事業と、地域で活動している団体や関係者との間で、連携できる部分については、一緒に取り組んでいくことが重要だと考える。行政と地域団体等が情報を共有しながら連携を深めていく必要がある。	○	②		まちづくり
私設公民館Social Base ANA－BA代表穴澤氏からの活動紹介。5月1日から大町通りで、地域のサードプレイスとして、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを目指しており、コワーキングスペースやカラーニングの場として活用している。高校生の勉強スペースとしての利用や、ボードゲームを通じた交流、シェア本棚の設置など、世代を問わず人が集まり、交流できる取組を行っている。人と人をつなげることを大切にしながら、地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を進めている。	(情報提供)	○	②		まちづくり

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域づくりを行っている団体を知ろう！参加しよう！

※処理状況について：【分類】議会に関するもの「●」、市政に関するもの「○」【番号】回答(処理)済「①」、ご意見として伺った事項(含む情報提供)「②」、後日回答「③」

市民の発言内容	議会(議員)の発言内容	処理状況※			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
令和8年度、公益社団法人会津青年会議所理事長松村氏から団体紹介。20歳から40歳までの青年経済人が所属する公益社団法人であり、「ひとづくり・まちづくり」を目的として活動している。主な活動としては、会議の進め方や意見の伝え方などを学ぶ研修や、地域課題の解決に向けた事業を実施している。また、「会津絵ろうそくまつり」の企画運営や、青少年育成事業として「わんぱく相撲」の開催などにも取り組んでいる。活動は会員の会費を中心に運営している。現在は、市役所や教育機関などとも連携しながら各種事業を実施しており、近年は酒蔵や漆器などの地場産業関係者だけでなく、会社員など幅広い職種のメンバーも入会し活動している。また、商工会議所青年部との違いについて、「商工会議所は企業の発展を通じて地域の発展を目指す団体である一方、青年会議所は地域を良くすることで、自分たちの仕事や暮らしも良くなっていくという考え方を大切にしている。20歳から40歳までで、地域を良くしたいという思いを持つ方に対し、ぜひ入会し、共に活動してほしい。	(情報提供)	○	②		まちづくり
公益社団法人会津青年会議所には事業者しか入会できないのかとの質問が参加者からあり、「設立当初は地元の有力者が多く所属していたが、現在は20歳から40歳までの、地域を良くしたいという強い思いを持つ方であれば、誰でも入会できる。サラリーマンの方もいる。また、活動の中心は地域貢献を目的としたボランティア活動である。」との回答があった。	(情報提供)	○	②		まちづくり

市民との意見交換会・事後処理報告書

謹教地区

件名	処理(対応)内容	備考
1. 議会だよりについて。 (P2)	【市民からの要望・質問】 議会だよりについて、市民からどのような質問や意見が寄せられているのか。それに対して議会としてどのように回答や対応を行っているのか聞きたい。 【事後処理結果】 5月22日に議会事務局より回答を得た。 「議会だよりにつきましては、年に数件程度、ご意見等をお寄せいただいておりますが、その内容は掲載記事の詳細についての問合せとなっております。お寄せいただいた質問等への回答を希望される方に対してはその回答を行うとともに、いただいたご意見は議会だよりの紙面作成の参考とさせていただきます。」との回答だった。	
2. 一般質問における質問事項の書き方について。 (P2)	【市民からの要望・質問】 一般質問を傍聴した際に、資料では市に対して強く求めるような表現になっている一方で、実際の質疑では柔らかい表現でやり取りされており、その差に疑問を感じた。一般質問の資料に記載されている「〇〇を示せ」といった表現について、これは決まった書き方なのか、また、実際の議員の話し方との違いに違和感を感じた。一般質問における質問事項の書き方について、一定のルールや慣例があるのか聞きたい。 【事後処理結果】 5月22日に議会事務局より回答を得た。 「一般質問通告書(質問事項)の記載方法については、議会運営の申し合わせ事項等により定められております。なお、「〇〇を示せ」等の表現は慣例として用いております。」との回答だった。	

市民との意見交換会・事後処理報告書

謹教地区

件名	処理(対応)内容	備考
3. 文化センターのインターネットWi-Fi環境整備について。(P7)	【市民からの要望・質問】 文化センターのインターネットWi-Fi環境整備は、どのように進める予定なのか聞きたい。Wi-Fi環境が整っていないため不便を感じる。 【事後処理結果】 5月15日に文化スポーツ課から回答を得た。 「文化芸術活動の場である施設の特性および費用面を勘案し、まずは令和8年度の予算で1室(展示兼会議室)にWi-Fi設備を設置する予定である。」との回答だった。	
4. 鶴ヶ城の公衆トイレについて。(P8)	【市民からの要望・質問】 鶴ヶ城のライトアップは、とても良い取組である。その一方で、鑑賞する来場者の利便性向上のため、ライトアップの終了時間に合わせて、鶴ヶ城の公衆トイレも利用できるようにしてほしい。 【事後処理結果】 5月12日(火)に観光課に確認をし、5月14日(木)に回答を得た。 「鶴ヶ城公園内には5か所トイレがありますが、 ① 管理事務所脇トイレは、施錠時間が午後9時頃であり、天守閣ライトアップ消灯後に施錠している。 ② 北出丸トイレ(武徳殿前)施錠時間は、武徳殿の利用があることから、午後10時頃に施錠している。 ③ 東口・西出丸・南口駐車場内トイレは、駐車場の利用時間に合わせ、午後6時頃に施錠している。(観桜期や夜間登閣やイベント実施時は、状況により施錠時間を遅くしている。) なお、開錠時間は概ね午前6時から7時であり、開場、施錠時間ともに、管理、防犯の面から上記のような運用としている。」との回答だった。	

市民との意見交換会・事後処理報告書

謹教地区

件名	処理(対応)内容	備考
5. まちなか案内所のトイレについて。(P8)	【市民からの要望・質問】 神明通りのまちなか案内所のトイレについて、靴を脱がずに利用できるよう、土足のまま入れる方式にしてほしい。 【事後処理結果】 5月22日に商工課に確認し、回答を得た。 「神明通りの会津若松まちなか案内所に設置しているトイレは屋内にあるため、衛生環境の保持と施設利用者に気持ちよく利用してもらえるようスリッパに履き替えていただいておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。」との回答だった。	

会津若松市議会議長 様

令和8年5月19日

予算決算委員会委員長 小倉 孝太郎
 意見交換会第5班 代表者 吉田 恵三